

東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

議事録

日時 令和3年9月22日（水）
午後3時から午後5時まで
場所 Web会議

■議 事

1. 東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会のスケジュールについて
2. 東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について
3. 東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略改定案について

■発言要旨

発言者	要旨
基本目標① 魅力あふれる地域をつくる	
施策1 地域外に向けた戦略的なプロモーション等を通じた東三河ブランドの創出	
西村委員	・今年度のブランドショップは、商品選定時のストーリー性の重視、8市町村間の調整、現地スタッフによる商品勉強のための事前視察（岡崎での物産展）等によって、緊急事態宣言下でも一定の売上があった。スタッフが商品に愛着を持って説明できたことが、客単価の向上に繋がったのでは。 ・今後は、常設ではなく期間限定でテーマを絞って（例えば豊橋市のエディブルフラワー等）関連商品を販売する方法で、地域の特色を際立たせてPRするとよいのではないかと。
高橋委員	・商品の販売だけでは伝えきれない背景や作り手の思いなどをあわせてPRしたという点で、よい取組だったと思う。 ・ブランド力をより高めるため、POPだけでなく商品自体のデザインやパッケージの工夫も重要。 ・ブランディングの手法を東三河全体で学ぶ機会を提供することも必要なのではないかと。
安彦委員	・奥三河ブランドでも、事業者とテーマの共通認識を持つことの難しさを感じている。今後、イメージを共有するための勉強会や意見交換の場が必要になってくると思う。
事務局	・パッケージや見栄えの重要性、生産者・事業者・行政が同じ方向を向いてブランド確立の意義を理解する必要性を認識した。セミナーを行ったうえで、テストマーケティングを実施していきたいと考えている。

木村委員	・パッケージについては、奇抜さを重視する流れだったが、最近ではシンプルさを求める傾向がある。 ・渥美半島でもメディアを活用した特産品のPRを行っているが、8市町村が一体感を持って主力特産品を印象づけられるよう取り組む必要がある。
伊東委員	・ラッピングバスについて、コロナ禍で観光客の来訪が見込めないこの時期に行う目的は？今後も継続するのか？効果の見極めはどのように行うのか？
事務局	・今すぐは難しいがコロナ収束後の来訪に繋げたいと考え開始した。路線バス車体の乗降口に観光PR写真を掲出し（8市町村2台ずつ計16台）、初年度は製作費として約80万円かかるが、来年度以降は年間約3万円の広告費のみで済むため、長期的に継続していきたい。効果の見極めは、KPIとしている東三河の認知度がひとつの指標になると考える。
伊東委員	・ブランドショップの売上額約50万円とあるが、収支は赤字か？
事務局	・予算500万円の事業であるため単純に考えれば赤字だが、目的は物販だけではないので、調査を含めた事業全体で価値のあるものだと捉えている。
松井会長	・改定案には、先ほど出たブランド確立のためのセミナー実施など今後の具体的な取組内容まで詳細に記されていない。資料の中で明文化できないか。
事務局	・予算と連動するため改定案の中では方向性の記載にとどめており、より具体的な事業内容は予算案の中で示す。 ・改定案は最終的に1月12日の首長会議で決定するが、その時には予算も決まるのでもう少し具体的内容を追加できるかもしれない。フィードバックを行って検討したい。
施策2 官民協働による観光地域づくりの推進	
高橋委員	・東三河DMO研究会では、推進計画の最終案が議論されている。観光においては地域の事業者が潤うことも重要で、事業者が興味を持つ内容にする必要がある。行政と観光協会だけでなく、ヒアリングを行うなどして事業者の想いも計画に盛り込んでほしい。 ・前回の研究会の議論で、東三河が目指す観光の姿について絞り込みがまだ明確になっていない部分があったので、もう少し検討を深めてもらいたい。
安彦委員	・8市町村に共通した尖った観光のブランディングを行っていないと、全国のDMOと何が違うのかが地域に伝わらない。事業者を巻き込みながらブランド確立を行う必要がある。
神谷委員	・ブランドショップへ行ったが、コロナ禍でも工夫して運営していると感じた。 ・コロナの影響で各市町村が観光に関する予算を大幅に補正している

	が、例えばクーポン事業など一市町村で行うのではなく連携できないかを感じている。 ・東三河DMOにおいては、市町村ごとの公平平等にこだわらず何を残して何をやるべきか全体で意思統一を図ってほしい。 ・山村都市交流拠点施設に関しては、森林事業に関する若者の就職プログラムもあわせて考えないと交流人口は増えても定住人口が増えないので、基本計画の中に方策を入れるべきだと思う。
施策3 山村都市交流拠点施設を核とした交流人口及び関係人口の創出	
事務局	・山村都市交流拠点施設については、ダムが建設される設楽町からの要望により平成21年から検討が始まった。その後発足した東三河広域連合が主体となることがふさわしいとして、所掌とする準備を進めている。東三河全体の振興に資する施設の設置という点が持続可能な施設運営にとって極めて重要であり、豊川水系総合開発促進期成同盟会において今年7月に基本構想を策定した。 ・今後12月の各市町村議会で議決いただいた後、来年度からは基本構想を基に具体的に広域連合主体で進めていく。令和4年度に基本計画の策定、令和7年度から施設建設、令和8年度の設楽ダム完成と同時にオープン予定。
伊東委員	・現存の施設で見本となるようなイメージはあるのか？
事務局	・一例としては、福岡県の五ヶ山ダムにモンベルが手掛けるキャンプ場がある。 ・設楽町からは、地域内外から人が集まり滞在滞在できる宿泊施設との要望があるため、キャンプ、グランピング、テレワーク、ワーケーションの場にできるような施設をイメージしている。また、森林の役割や水の恩恵について学べる場であることも重要だと考える。
松井会長	・非常にポテンシャルの高い事業であり、今の情勢を考えても自然との接点ということであまり焦点が合えば大きな効力を発揮する。 ・今後、委員の皆様からも意見をいただくことになるため、ぜひお考えいただきたい。
基本目標② 活力ある地域をつくる	
基本目標③ 「ひと」が流入し定着する地域をつくる	
基本目標④ 安心して暮らせる地域をつくる	
伊東委員	・転出抑制・人材還流について、大学生100名を対象に行ったインターネットアンケートの内容は？
事務局	・就職活動で重視することや情報収集の方法など、事業の検討に繋がるような調査を行った。コロナ禍で満足に就活ができない中で学生は自ら情報収集を行っており、情報発信の重要性を認識した。東三河地域の企業に関する情報をSNS等で発信していきたい。
伊東委員	・企業へのフィードバックも含め、ぜひ東三河の企業を巻き込んでいただきたい。

高橋委員	・コロナ禍で大学生の生活スタイルが変わってきて、外出機会も大幅に減り安近短の傾向にある。また、家で過ごす時間はSNSで楽しんでいるという声が多い。そのため、東三河の魅力的な場所等をICTの活用によって発信する取組は重要で、若者のニーズを汲み取って届けられるようブラッシュアップしてほしい。 ・学生は就職への不安感を抱えており、自分でITスキルを学ぶなどしている。企業情報の発信ももちろん大事だが、この地域で学び生活する学生に向けて、就職のためのスキルを高められるような支援策を考えられないか。
松井会長	・ほの国こどもパスポートだけでなく学生や若者をターゲットにした域内観光のために、SNSによる発信等で地元の良さを見つめ直す機会を提供するという視点は重要。社会情勢も考慮したうえで施策を検討してもらいたい。
神谷委員	・以前から発言している成年後見の件で、先日NPO法人の方とともに広域連合で話を聞いてもらった。市民後見人の養成については引き続き検討していただきたい。 ・介護人材の確保はどの自治体も苦慮していることと思うが、東三河地域での人材確保について広域連合で連携強化を図ってほしい。 ・コロナの影響で大学生に限らず子どもの生活も変化し、タブレット端末を用いた自宅学習が行われている。東三河の観光資源を配信して自分たちが住む地域について学ぶなど、せっかく配布された端末を活用して情報発信する事業ができないか検討をお願いしたい。
事務局	・介護人材確保のため、ケアマネジャーの資格取得への支援を開始した。また、民間人材派遣会社と連携し介護保険施設と人材をマッチングする事業を実施していく。中山間地域の介護人材不足・高齢化が顕著となってきたため、これらの事業を推進していく。
木村委員	・オリンピックによって意識が高まったサーフィンや、サイクリングロード、温泉など渥美半島を全国的にPRして若い人からお年寄りまで地域外から多くの人に来てもらい、それが東三河全体に波及すればビジネスチャンスにもなると思う。他にないものをつくり上げるために、意見を出し合って盛り上げていきたい。
西村委員	・このまちに行くとおもしろい人がいるなど名物のような人に会うことが目的で人が集まり、次のまちに巡回するような流れができると、楽しいまち・住みたいまちになっていくのではないと思う。
安彦委員	・今後、設楽町長選と新城市長選があり奥三河が大きく変わる可能性がある。奥三河DMOの事業についても理解いただくために今以上の努力をしないといけない。期待感とともに危機感も大きいので、奥三河に引き続きご支援をいただきたい。
高橋委員	・基本目標②施策2のKPIである地域産業人材育成事業への参加者数について、対象は誰か？学生も含まれているか？

事務局	・今年度すでに開催したオープンデータ研修や今後実施するワークショップ、ビジネスプランコンテスト等への参加者数の累計で、学生も対象となっている。
高橋委員	・コロナ禍で学生たちは、自分の時間を有効に使いスキルを高め自己研鑽するよう意識が変化してきている。将来どんな活躍ができるか考える際に、選択肢や可能性を広げるきっかけになるような事業に積極的に参加できると思う。大学へ発信するなどして、学生が参加しやすくなるような機会を増やしてもらえるとありがたい。
その他	
松井会長	・豊橋駅前のe m C A M P U Sが11月27日にオープン予定で、東三河地区のフードバレーにしようという構想で取り組んでいる。 ・東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組については、各所でちぐはぐに動いても非効率なので、アンテナを張って様々な機会を活かしながら、県や国の施策とも連携をとりながら事業を進めていかなければならない。各方面でご活躍の委員の皆様方なので、情報共有をしながらやっていけたらと思う。 ・事務局は、ここでの意見を議事録にしっかりと反映させ、首長会議を経てのフィードバックをしてほしい。また、即座に改定案を変更するのは難しいということは理解しているが、この場でまたディスカッションしていけるよう改定案の前段階の検討課題としてリストアップをしてもらいたい。